

令和4年度第3回（第76回）CPDプログラム委員会議事録

日 時：令和4年12月13日（火）14:00 ～ 14:45

場 所：Zoom によるウェブ会

出席者（順不同・敬称略）

高木真人委員長、湯本公庸委員、清田修委員、植山淑治委員、八坂保弘委員、
太田賢委員、柳川博之委員、橋本克巳委員、尾崎章幹事
オブザーバ：広崎膨太郎前会長

配布資料

- | | |
|----------|--|
| 資料 3-1 | 令和4年度第2回（第75回）CPDプログラム委員会議事録（案） |
| 資料 3-2-1 | 第41回（2022年度第3回）CPD運営委員会議事録（案） |
| 資料 3-2-2 | 第42回（2022年度第4回）CPD運営委員会議事メモ |
| 資料 3-3 | 2022年度第1回CPD協議会公開シンポジウム開催結果 |
| 資料 3-4 | 第4回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム |
| 資料 3-5-1 | 日本工学会 CPD ガイドライン見直しドラフト r1 |
| 資料 3-5-2 | 日本工学会 CPD ガイドライン改訂案 r1（Excel ファイル） |
| 資料 3-6 | 22023年度事業計画・2022年度事業報告案（CPDプログラム委員会関連） |

議事

1. 前回議事録の確認

- 資料 3-1 により、前回の議事録確認を行った。特段の修正・コメントは無く、本議事録は確認された。

2. CPD 協議会運営委員会（第41回、第42回）報告

- 資料 3-2-1、3-2-2 により、CPD協議会運営委員会の議事内容が報告された。
 - 日本のリカレント教育が社会ニーズを満たしていないという OECD の調査結果については、運営委員会でも精査する必要ありとの議論があった。

3. 2022 年度第1回CPD 公開シンポジウム開催結果

- 資料 3-3 により、11/22 に開催されたシンポジウムでの各講演の概要が、高木委員長から報告された。
- 求めに応じ、基調講演を頂いた広崎前会長から以下の補足があった。
 - ECE プログラムや他の CPD において、産学連携の意識の高まりを感じた。この流れを各学会の活動に展開して頂きたい。会長懇談会などで各学会に講演頂くだけでなく、講演集や会報の形で日本工学会会員に配布するなど、いろいろな工夫を検討頂きたい。

- OECD の調査結果については表面的にとらえないよう注意する必要がある。成人が高等教育機関で学ぶ率が低いということだが、国情の違いもあり、必ずしも同じベースでの比較にはなっていない。
- これに関連して、以下のコメントがあった。
 - 現状、日本工学会の活動を外部に発信する手段が限られている。世界エンジニアリングデー記念シンポジウムの記録も提案はしたが実現できていない。会報などについては可能な範囲で検討したいと考えている（高木委員長）。
 - OECD のレポートは、大手全国紙でも複数回報道されており、背景も含めて調べる必要がある（高木委員長）。
 - 広崎前会長の講演で示された 3 次元の観点を、更に発展させていく考えがあるか。→同様の意見を複数いただいているが、この考えを広めようとはしていない。個別に議論されていた CPD とリカレント教育などを体系的にまとめて議論できる場作りは行っていきたい。来年 3 月の通信学会全国大会で産学連携・学会の役割について講演する予定であり、もう少しきめ細かく分析したものを示して、この議論が広がることを期待したい。

4. 第 4 回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム

- 資料 3-4 により、来年 3/4 開催予定の第 4 回世界エンジニアリングデー記念シンポジウムについて、登壇者が確定し UNESCO などに後援を申請中であることが、高木委員長から説明された。
 - 第 1 部は「若手技術者の活躍」として、若手技術者 3 名と若手を教育する立場の方 3 名に登壇いただく。第 2 部は「社会課題解決への挑戦」として、インフラ、情報系等で活躍されている 5 名の方々に登壇いただく。ジェンダーバランスにも配慮した。
 - 本シンポジウムは CPD 協議会の第 2 回公開シンポジウムを兼ねており、共催として CPD 協議会の名前も明記している。

5. 日本工学会 CPD ガイドラインの改訂

- 高木委員長から、資料 3-5-1 により、前回の議論にもとづく見直し案が説明された。
 - CPD の用語の定義、技術者に求められる能力については、国際エンジニアリング連合（IEA）の標準改訂に基づく内容を追記した。
 - CPD の考えを広く普及させたいとの意図で、CPD 協議会加盟の学協会に限定する表現は出来るだけ削除した。
 - 第 6 期科学技術・イノベーション基本計画で謳われているデジタル関連の他、STEAM 教育などのキーワードを取り入れた。
 - 社会ニーズに関する記載を追加して、プログラム企画側でも意識する必要があることを示した。
 - 改訂審議を行った CPD プログラム委員会の委員名簿も添付する予定。

- 所属学協会にご照会頂き、次回の CPD プログラム委員会までに、ご意見・コメント等を頂きたい。
6. 2023 年度事業計画・2022 年度事業報告案
- 高木委員長から、今後のスケジュールと、資料 3-6 により次年度の事業計画・報告案が説明された。
 - 可能な範囲で所属学協会にご照会頂き、12/20 までに、ご意見・コメント等を頂きたい。
7. その他
- 次回については、別途日程調整を行う。
(来年 3 月、会議時間 1 時間を前提に調整する。)

以上